



愛郷無限

土屋館
どや
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2013年9月11日号 NO.410

写真提供：大山市

Subject：北海道・東北 B-1 グランプリ in 十和田に想う

9月7～8日の両日、青森県十和田市で二年ぶりとなるご当地グルメでまちおこしの祭典【北海道・東北B-1 グランプリ in 十和田】が開催され、私たちも主催の愛Bリーグ北海道東北支部の一員として出展してきました。大曲納豆汁と大曲花火男は大人気で、調理・提供が追いつかないほどの大盛況であり、大曲のPRも存分にすることができました。しかし今回はそんな人気のことよりも皆さんに伝えたいことがあります。

準備・前夜祭も含めて前日の9月6日から十和田入り。しょっぱなから十和田の皆さんのもてなしの心とお心遣いにノックダウンされてしまいました。B-1 グランプリは食イベントではありません。ご当地グルメを用いた街づくり活動の博覧会です。十和田の実行委員会、行政、ボランティアの一般市民、高校生、小学生達の姿にこの真髓を見ました。ご当地グルメ活動をアードコーダ批判している人達は一度ちゃんとB-1 グランプリの現場に参加し、その街の人達の想いと活動を自身の目で見た方が良いです。己の浅はかさを知る事になるでしょう。まちづくりは人づくりから。その精神が細やかな部分にまで行き届いていました。

彼らの素晴らしさと愛郷心を目の当たりにし、我々は【おもてなし】なんて簡単に言っちゃいけないとさえ反省しました。商業や観光の面で昨今多用される【おもてなし】という言葉ですが、実際のところは、多数の様々な人を相手にするための安易な妥協と、自身の都合を知らず知らずに優先させることを言い訳にはしていないか？ 一人一人ことなる事情と背景に於いて、自身の都合を一切排除してなお相手のための最大限の智恵と努力を惜しまぬ姿勢があつてこそ【おもてなし】と言えるのであろうと、十和田の三日間を通して感じたのです。

十和田西中学校の生徒・先生は全員がボランティアで運営に参加しています。各出展団体を徹底的にサポートする役、段ボールを首から提げ【ゴミいただき隊】として来場者のゴミをもらって歩く役、道案内する役、それぞれがその活動の意味をちゃんと説明され自身で消化・理解し、しかもそれを愉しみながらやっている。【公】のために汗することの喜びと充実感を体得している。【ゴミいただき隊】の活躍で、イベント終了後一時間しかたっていない会場や大通りにはゴミはほとんど残っていませんでした。市内の3小学校の生徒・先生・親達は、十和田バラ焼きの材料である「タマネギ」を自ら育て、調理し、お客様に提供している。食後のゴミも自分たちで始末する。そのテント前では小学生達による愛郷・十和田についての素晴らしい朗々とした説明がなされる。それはテント前だけではなく通りの角々でも行われている。おそらく相当練習したのでしょう。これは一生涯、彼・彼女のバックボーンとなるはず。前夜祭では協賛した飲食店が無償で出展者にご馳走を振る舞っている。本当に良く来てくれたとねぎらってくれる。

まちづくりは人づくりから。

花火の街、354の街にはまだまだやらねばならぬ事が山積しています。